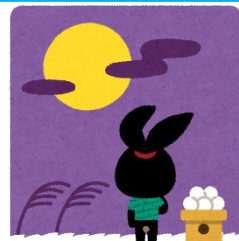


きょうほれんニュース 2025.9

京都保育団体連絡会 発行

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都 5 階
Tel 075-801-8810 Fax 075-822-6220 kyohoren@gmail.com



京都市保護者会連合会 総会のご報告

7月20日、市保連の総会、講演会&交流会を行いました。講演会には「絵本館むむむ」の花田睦子さんをお迎えし、絵本にまつわる親と子どもの関わりについて楽しいお話を頂きました。

市保連の総会では、講演会のほかに、おにぎり・唐揚げ・お菓子などの軽食を囲んで、参加者同士が交流できる時間も設けられました。保育を担当してくれた若手保育士さんたちも加わり、子どもたちも一緒になって、にぎやかで楽しいひとときを過ごしました。

また、市保連所有の綿菓子機も大活躍！子ども達は、自分で綿菓子作りに挑戦し、いつものお祭りなどではなかなかできない体験に大興奮でした。「総会」と聞くと、堅苦しくて退屈そうなイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、市保連の総会は講演や交流の場としても楽しめる、保護者にとってもお子さんにとっても魅力的な集まりとなっています。

今後とも市保連の活動にご注目いただけると嬉しいです。

総会に参加された保護者の方の感想より...

紹介して下さった絵本『おかん』に登場する母親は、子どもから「夢の中でも怒っていた」と言われるほどですが、子どもはそんなおかんが大好きで、しっかりと愛情を受け取っています。私は育児をする中で、いつも優しく丁寧にありたいと思いつつも現実には怒ってばかりの自分に罪悪感や劣等感を抱いていました。「育児とは関わることであり、人間関係が近ければ関わりの中の“摩擦”が大きくなっていくのは自然なこと」との言葉が心に残りました。ありのまま子どもと向き合えば、そこには愛があるのだと励まされたように感じました。さらに印象的であったのは、「絵本とは自然と愛を育んでくれる道具」とであるというお話です。絵本を通して誰かが子どもと「関わる」とことはその子どもにとって「愛された思い出」となっていくのだそうです。私自身、実家で母が大切に残してくれていた絵本をみるとじーンと心が温かくなり、その絵本を今度は私が子どもたちに読み聞かせをしていると、ふと幼い頃の情景や思いがよみがえってきて少しせつなく、不思議な感覚になります。先生のお話を通して絵本とは不思議な力を持つ存在に思えました。これからも自分らしく、子どもたちとの読み聞かせの時間を楽しみながら大切にしていきたいです。

息子も年中組さんになり、来年が保育園のラストイヤーと思うと、いつの間にそんな時間が経ったんだろうという気持ちです。とはいえ、洗面台にすっぽり収まって体を洗われてうーうー言っていた生き物が、自分で歩くようになり、朝起きると冷凍庫を自分でガラッと開けては「ちょっと、おとーさん、アイスがないよ」などと抗議するようになっているわけだから、時間が経っていたのも当然か、などと妙に納得する毎日です。

絵本朗読の効果についての講演では、他の園の保護者会の様子や、運営の仕方の違い、学童保育のことなど、短い時間ながら充実したものでした。「親の声で読んであげるだけで子どもにとってはものすごく大きな意味がある」というお話から、家に帰ってさっそく絵本を読んでみると、息子も夢中になってくれました。

最近 YouTube の子ども向けアニメーションが多めの日々だったので、「絵本ももうちょっとがんばろうか」と夫婦で話しました。市保連総会で得た知見やアイデアを、自身の子育てに活かすだけでなく、保護者会でも共有して今後の保護者会運営につなげていきたいと思います。良い機会をいただきありがとうございました。

日本みて歩き その12 ー島根県 石見銀山ー 藤井伸生

世界遺産になった石見(いわみ)銀山は結構な人で賑わっています。江戸時代、年産4000貫=15tの銀を産出し、最盛期には周辺に約20万人が暮らしていたと言われています。この壮大な銀山にビックリします。写真①は銀山の坑道で、中に入って見学できます。

石見銀山に行ってみたくと思ったのは、銀山もさることながら、まちづくりの様子を見たかったからです。写真②はその町並みです。きれいな町並みで、空き家はほぼありません。その秘密は中村ブレイスといった義肢装具・医療用装具の製造販売の会社が(写真③)、その利益の一部を使って空き家改修し、人を呼び込んでいるのです。



①



②

おしゃれなブティックやレストラン、そして移住者が来ています。

この会社の創業者中村俊郎氏が石見銀山・大森町の出身者で、ここに本社工場があるのです。この会社の基本方針の一つに、「文化・遺産の保護等に関わる社会貢献活動に取り組む」が掲げられています。こんな素晴らしい会社もあるんですね。たくさんの利益を上げている企業は、「社会貢献活動」をもっとやってほしいものです。近くには温泉もあります。いいところですよ。



③

少子化対策の財源は 医療保険料に上乗せする子ども・子育て支援金でなく、 税金で！！

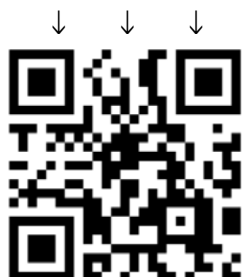
—— 子ども・子育て支援金徴収反対署名にご協力を！！ ——



政府は、2026年4月から、すべての人に医療保険料に上乗せをして「子ども・子育て支援金」を徴収しようとしています。1人あたり、月額500円ほどの負担増になるのではという試算もされています。

医療保険料に医療給付とは別の目的のための上乗せをすることは社会保険の原理に反します。また、形を変えた増税です。子育てのための財源は国の責任で行うべきです。

是非、下記のオンライン署名にご協力ください！年内1万筆目標で、取り組んでいます。



※ 8/19に京都社保協こども部会で
オンライン学習会を開催しました。
是非ご視聴下さい。 こちらからどうぞ →

